

おお友よ、こんな音ではない！
もっと心地よく、喜びに満ちた声で
歌い始めようではないか！

(詞:ベートーヴェン)

歓喜よ、神々の美しい火花よ、
楽園からきた娘たちよ、
私たちはいま火花に酔いしれて、
天の上なる者よ、あなたの聖域に入ってゆく。
世の流れに厳しく分けられていたものを
あなたの魔法が再び一つに結び合わせ、
あなたが柔らかな羽を休ませているところで
すべての人は兄弟となる。

一人の友の友になるという
大きな成功を手にした者よ、
やさしい妻を勝ちえた者よ、
諸君の歓喜の声をここに交えよ！
そう、この地上で誰か一人だけでも
友の魂を、自分のものと呼べる人なら！
そしてついぞそれを成し得なかった者は
泣きながらこの集いから立ち去るがよい。

すべてこの世に在るものは、
自然の乳房から喜びを飲む。
善き者も、悪しき者もすべて
自然が作ってくれたバラの道を進んでゆく。
自然は私たちに口づけとぶどう酒を与え、
死の試練にも揺るがない友を授けてくれた。
肉体の快樂は虫けらに投げ与えられ、
そしていま神の御前に立っているのは
知天使ケルビムだ。

喜べ、天上なる方の太陽が
輝かしい大空の広場を飛んでゆくように、
兄弟たちよ、凱旋する英雄のごとく
喜びに満ちて自分の道を進むがよい。

抱き合うがよい、幾百万の者たちよ。
この口づけを全世界に広めよ。
兄弟たちよ、あの星空の天幕の上に
愛しい父が住んでいるに違いないではないか。

幾百万の者たちよ、脆(ひざまづ)いているか？
世界よ、創造主を感じているか？
星空の天幕のさらなる上に彼を探し求めよ。
彼は星々のかなたに
住んでいるに違いないのだから。

みかじり ただし

(訳:三ヶ尻 正 音楽学)